令和８年 日米硫黄島戦没者合同慰霊追悼顕彰式

３月28日（土）東京都小笠原村　硫黄島

太平洋戦争末期、日米あわせて約二万九千柱の尊い命が失われた激戦の地「硫黄島」において、第27回目となる「日米硫黄島戦没者合同慰霊追悼顕彰式」が執り行われました。式典には、日本側の遺族で構成される「硫黄島協会」（寺本鐵朗会長）、小泉防衛大臣、当時指揮官を務めた栗林忠道中将の孫にあたる新藤義孝衆議院議員のほか、陸幕長・海幕長・報道官等および米側の「米国硫黄島協会」（デービット・バイス会長：元米海兵隊少将）、在日米国大使館のアーロン・スナイプ首席公使など両国から約140名が参列しました。

寺本鐵朗硫黄島協会会長は「壮烈な戦いの記憶も徐々に風化しつつあることを深く憂うが、悲惨な戦いを再び繰り返さぬよう、永く後世に語り継ぐ責任と義務がある」と述べ記憶の継承に向けた強い決意を表明しました。

また参列した小泉防衛大臣は、日米双方の参列者を前にした「追悼のことば」で、かつての激戦地を「和解と絆の象徴」として位置付け、現在日米が強固な同盟関係にあることに触れ、「戦争の惨禍を二度と繰り返さない」との誓いを明らかにしました。

式典後、小泉防衛大臣は、厳しい安全保障環境を念頭に、防衛省に「太平洋防衛構想室」を４月に新設することを表明し、歴史の重みを次世代へと繋ぎ、将来の脅威に立ち向かう強い意志を示しました。

（写真出典：小泉進次郎 https://x.com/shinjirokoiz）